



## 令和5年度「教職を語ろう」実施報告書

### I 事業の概要

1. 期日 令和6年2月20日(火)～23日(水)

2. 日程



2月20日(火)	
12:30	受付
13:00	出合いのつどい
13:30	-講義①- 「これからの教師(集団)に求められる力 ～鳥取県のいじめ・不登校の現状から～」 講師:いじめ・不登校総合対策センター 定常博文センター長
14:30	休憩・感想記入
14:45	-講義②- 「教師になるために必要な力とは」 講師:倉吉市立東中学校 加嶋慎一校長 (前鳥取県教育委員会中部教育局学事担当係長)
16:15	休憩・感想記入
16:30	グループ意見交換「教職を語ろう①」
18:00	夕食
19:00	施設使用オリエンテーション
19:30	入浴 就寝前の入浴も可
20:15	情報交換会「夜も語ろうフリートーク」(食)
21:30	就寝準備・入浴可
22:30	就寝
2月21日(水)	
6:30	起床
7:00	朝のつどい・そうじ
7:30	朝食
8:40	退所点検
8:50	-演習- 「学級で使える仲間づくりの手法を学ぼう」 ～鳥取県教職員初任者研修での実施内容より～ 講師:船上山少年自然の家 山下孝治係長
10:00	先輩教師からのメッセージ ～教職をめざす皆さんに伝えたいこと～ -体験談①- 「民間企業から教職への転職を経て」 講師:倉吉市立上北条小学校 三木雅司教諭 -体験談②- 「1000時間体験は『教師生活一生モノの財産』だ!」 講師:湯梨浜町立羽合小学校 徳永峻二教諭
11:20	グループ意見交換「教職を語ろう②」
12:30	昼食
13:20	感想記入
13:50	別れのつどい・解散

3. ねらい 今日求められる教師像について理解を深め、「教職」という同じ志を持つ参加者同士が思いを語り合うことで、自らの将来へ展望を抱く。

4. 対象 教職を志す学生及び一般 20名程度

5. 応募者数 13人

6. 参加者数 10人



7. 参加費 2,700円(食費、シーツ代、活動費、保険料等)

8. 外部講師

定常 博文氏(いじめ・不登校総合対策センター長)

加嶋 慎一氏(倉吉市立東中学校校長)



## II 実施状況

昨年度、日帰りで行われた主催事業「教職を語ろう」は、今回1泊2日での開催となった。

出会いのつどいの後、まずは定常センター長に「これからの教師(集団)に求められる力」というテーマで講話をいただいた。鳥取県の不登校児童・生徒の現状から、アセスメントや行動・言動の背景を知ること、理解すること、寄り添うことなど実体験を踏まえたお話で、参加者は学び多き時間となった。

次に加嶋校長先生のお話では、若手教師に求められる力として、「絶えずプラス思考で考え、出来ない理由ではなく、出来る理由を探して活動すること」の大切さを教えていただいた。また、「なぜ教師になろうと思ったのか?」という問いに対して、改めて自分自身を見つめ直すきっかけをいただくことができた。

その後の意見交換では、3つのグループに分かれ、次のテーマに沿ってそれぞれの思いを語り合う時間となった。

\*\*\*\*\*

- (1) 自分の好きな先生はどんな先生だったか。
- (2) AIやICT技術が今後も発達したとして、機械にはできない教師(人間の力)とはどんなことがあるか。
- (3) 教職はブラック企業(学校)と言われているが、あなたは思うか。

\*\*\*\*\*

「夜も語ろうフリートーク」では、事前にアンケートをとり、学生から出されたテーマについて、学生同士や教職経験者に聞いてみたいことに話が及んだ。学生の本音や不安に思っていることを語る貴重な時間となった。

2日目は、学級づくりに役立つ仲間づくりレクリエーションからスタート。既に打ち解けている参加者ではあったが、どんどんアイデアを出し、協力しながら楽しい活動となった。

「先輩教師からのメッセージ」では、三木指導員からは、「民間企業から教職への転職を経て」感じたことという視点で、徳永指導員からは「1000時間体験が教師生活の財産になっている」という視点で、それぞれの体験談を踏まえ、個性的で刺激的な講話をしていただいた。

各グループで二人の指導員の感想を共有した後、最後は実際に参加者に先生役になってもらい、テーマを選び語っていただいた。どの参加者も悪戦苦闘しながら、何とか児童・生徒に伝えようとする前向きな姿勢が見られた。

少人数ではあったが、同じ教職を志す仲間が集い、中身の濃い2日間を過ごすことができた。また、改めて教職について考える機会になったようだ。別れのつどいでも、参加者一人一人が感想を述べ、和やかな雰囲気の中、本事業を終えることができた。



### Ⅲ 総括

#### 1. 参加者の感想(抜粋)

- ・2日間を通して「教師って?」という問いを何度も考えられる機会だった。たくさんの先生方の体験談を聞くことによって、多視点から考えを深めることができた。これから自分の進路を進むにあたって、改めて自分はなぜこの職業を選ぶのか自問し、深めることができるような貴重な機会だった。改めて、3回生の今受けることができ良かったと思う。これからももっとがんばっていきたいと思ったと同時に1000時間を通して成長していきたいと思った。
- ・大学の講義では聞くことができない教職の「リアル」というものを知ることができ、とてもためになる2日間だった。卒論研究で私はプロ教師について研究しているのだが、論文で読むよりも、やはり生の人間の声を聴くことで、より納得した点が多くあった。今回のインプットした情報を次はしっかりとアウトプットできるよい教員になればいいなと思う。



#### 2. 成果

- ・各講師の先生方の話の内容が具体的で、教師を志す参加者にとって、大きな刺激や学びになった。
- ・1泊2日で行うことによって、夜の時間もそれぞれが疑問に思うことや聞いてみたいことを語り合う場を持つことができ、参加者の教職に対する不安が少しは解消されたのではないかと。
- ・参加者が実際に教師役になり、それぞれが選択したテーマ(課題)について、児童・生徒・保護者を想定して話をしていただいた。より、学校現場に近い形を体感することができた。

#### 2. 課題

- ・教職を志す学生にとっては、学び多き企画ではあると思うが、広報活動を行ったにも関わらず、少人数での活動になってしまったのが残念だった。